様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１３４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ０４４８８

研究課題名（和文）パブリック公開パフォーマンス評価を導入した異文化理解型美術鑑賞教育方法の開発

研究課題名（英文）Development of Educational Methodologies for Art Appreciation Based on Intercultural Understanding and Incorporating Publically Disclosed Performance Assessments

研究代表者
濱口　由美（HAMAGUCHI, YUMI）

福井大学・学術研究院教育・人文社会系部門（教員養成）・教授

研究者番号：８０５８８５５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：教員養成学部の学生たちは、小学生が外国の子どもたちの作品を五感や自らの身体を用いて再構成する活動などを通して、他国の子どもの暮らしぶりについて探求しようとする異文化理解型の鑑賞学習プログラムを開発し、上海市など国内外にある複数の小学校において公開型の出前授業に取り組んだ。また、海外における先進的な表現教育の成果発表の場や活動について、パブリック公開パフォーマンス評価の視点から整理・検討し、論文や図書にまとめて発表した。

研究成果の概要（英文）：Students in the Teacher Training Department developed an appreciation study program based on intercultural understanding aimed at exploring how children in other countries live through activities such as elementary schools students using their own bodies to reconstruct works created by overseas children, and engaged in open guest-teacher lessons at numerous elementary schools both inside and outside of Japan, including Shanghai. In addition, they organized and investigated locations and activities for reporting the results of advanced expression-related education overseas from the perspective of publicly-disclosed performance assessments, and reported on these in the form of dissertations and books.

研究分野：美術教育学

キーワード：美術鑑賞教育　パフォーマンス評価　パブリック公開　異文化理解　実践コミュニティ　レッジョ・ナラ　教員養成

１．研究開始当初の背景

2014 年、東京にある森美術館では、グローバル化が加速する現代社会の多様な境界の中にいる子どもたちをテーマとした展覧会が開催されていた。その展覧会はニューカマーと呼ばれる外国籍の子どもたちへの学習支援体制や、異文化理解や多文化共生の教育活動が急速に求められるようになってきていた我が国の学校教育の課題の奥深さを改めて考えさせられるものであった。

こういった状況の中で本研究に着手することになった当初は、地方の教員養成学部の学生にも、外国籍の子どもたちに日本語を教えたり母国文化への誇りを抱かせたりするための教育支援者としての要請が高まりつつあった。教育再生実行会議から提出された「これからの時代に求められる資質・能力とそれを培う教育、教師の在り方について」（2015 年）に於いても、「異なる価値観や文化的・宗教的背景をもつ人と互いに理解し合い共存していくための〈感性、思いやり、コミュニケーション能力、多様性を受容する力〉がグローバル化社会における重要な資質や能力である」といった現代社会の課題に対応すべき教師のあり方が示されていた。

鑑賞学習においては、平成 20 年度の学習指導要領の図画工作科・美術科・芸術科（美術・工芸）の改善の基本方針として、「我が国の美術についての学習を重視し、美術文化の継承と創造への関心を高める。また、諸外国も含めた美術文化や表現の特質などについての関心や理解、作品の見方を深める鑑賞の指導が一層充実して行われるようにする」といった具体事項が記されていた。しかしながら、異文化理解という教育的視点から学校教育における鑑賞学習を捉え直してみたとき、すでに 30 年以上も前から小・中学生国際交流展といったような作品を通しての異文化理解や国際交流を目的とした鑑賞活動の場が多くの市町村で用意されているにもかかわらず、本来の目的遂行に寄与できるような鑑賞学習プログラムの実践的研究がほとんどなされていない状況があった。

申請者は、研究開始当初までに、学生・学校教員・美術館学芸員らの協働的な学びの場を創出する「パフォーマンス評価を導入した鑑賞教育の協働実践的方法論」の開発に取り組んでおり、その成果の一つとして「パブリックの場に公開していくパフォーマンス評価の導入」があった。パブリックに公開するパフォーマンス評価を導入することで、プロジェクトの参画者が自分の思考や衝動の元を何度もたどり直す自己評価力やメタ認知を育む学習プロセスを創り出すことを明らかにしており、異文化理解能力を育む鑑賞学習の開発においても、開発者自身の思考や衝動の元をたどり直す学習プロセスの創出が重要な鍵となると考えた。

そこで、異文化理解型鑑賞教育プログラムの開発と実践を通して、現代社会の今日的課題に対し主体的協働的に取り組むなどのグローバル化社会における重要な教職の資質や能力を育むことを目的とする本研究においても、国内外の学生や教員・学芸員らが参画できるパブリック公開パフォーマンス評価（例えば、異文化理解型鑑賞学習の出前授業を国内外の小学校において公開する）を導入するプロジェクトの実践的研究に着手することにした。

２．研究の目的

(1)異文化交流を促す鑑賞学習の開発とその教育的価値をパブリックの場において多様な人と実践的に検証していくことのできるパフォーマンス評価を導入した異文化理解型鑑賞教育プロジェクトの実践的研究に取り組み、教育的可能性について検証する。

(2)パブリック公開型の評価活動に取り組む国内外の学校教育や地域を視察し、その方法と意義について整理するとともに、異文化理解型鑑賞活動のプロセスや意義を多様な他者と共有するパフォーマンス評価の方法を開発する。

３．研究の方法

(1)異文化理解型鑑賞学習の実践的研究

①「上海の小学校に出前授業に行こう」プロジェクト

教員養成における鑑賞学習実践プロジェクトにおいて開発された異文化理解型の鑑賞学習プログラムの実際と教育的可能性を検証するために、上海師範大学附属第一小学校において公開された「見て、まねて、伝え合おう」の活動記録の整理と検討を行うとともに、また開発のプロセスに学生が携わることで自らの異文化理解能力をどのように育んできたのかについても検討した。

②「移動美術館を作ろう」プロジェクト

世界児童画展の作品を用いて、異文化理解を促す鑑賞学習を開発するとともに、福井大学教育地域学部附属小学校（現：福井大学教育学部義務教育学校）及び上海師範大学康城実験学校 2 年生、上海嘉定区甫苑小学校 4 年生を学習者とした授業実践に取り組み、子どもたちの異文化理解の学習プロセスについて比較検討した。

(2) 学習プロセスや教育的価値を共有するパブリック公開型パフォーマンス評価の研究

①中国において芸術教育推進校として設立されたた荷花池幼稚園を視察し、子どもの成長を促す教育活動の評価をどのようにパブリックに公開しているのか明らかにする。

②イタリア、レッジョ・エミリア市における

文化プロジェクトに参加し、学校教育への参加と理解を促すどのようなパフォーマンス評価が展開しているのかについて明らかにする。

４．研究成果

(1) 「上海の小学校に出前授業に行こう」プロジェクトの実践的研究の成果

上海師範大学附属第一小学校における授業研究会では、作品の特徴や印象を身体で真似たり劇化したりするなど、自らの身体を活用して再構成する活動を用いた３種類の異文化理解型鑑賞プログラムを公開した。本授業研究会に参画した複数のスタッフによってまとめられた実践記録を整理検討する中で、次のような成果を得た。

①身体を通して理解し身体を通して表現するため、視覚的イメージの交換・交流が可能である。

②作品の造形要素を丁寧に確認しながら、共感的に読み取ろうとする態度が芽生える。

③異なる言語を持つ者たちの間にも、共同体感覚が育まれやすい。

また、スタッフとして参加した学生の学習個人誌からは、自国の美術教育や教師教育の中にも異文化接触の場が存在することへの認識が高まったことや、それらを認識した上で異文化理解能力を育むプロセスを自らがつくりだす力が教職を目指す上では必要ではないかといった提案がなされるなど、教員養成で学ぶ学生にとっても価値ある「問い」を表出させ、異文化理解型鑑賞に取り組む価値や意義を問い直すプロセスを生み出していたことを明らかにした。

(2) 「移動美術館をつくろう」プロジェクトの実践的研究の成果

	「移動美術館をつくろう」の Task
1	五感を働かせて、世界中の子どもたちの絵の世界を旅してきましょう。
2	絵の中で発見したこと。感じたこと、考えたことを語り合いましょう。
3	話し合ったことをもとに、旅の思い出の劇を作りましょう。
4	劇を映像に残して、海外の子どもたちに送りましょう。

表１　鑑賞学習の Task

本プロジェクトにおいては、世界児童画出品の８枚の絵（スリランカ、マレーシア、ロシアなどの子どもたちの作品）を用いて、海外の子どもたちのために「移動美術館をつくろう」といったパブリック公開型パフォーマンス評価と表１のような４つの Task を設定した異文化理解型鑑賞学習プログラムを開発し、福井大学地域教育学部附属４年生、上海海師範大学康城実験学校２年生、上海嘉定区甫苑小学校４年生を学習者とした授業実践に取り組んだ。

本研究においては、福井大学地域教育学部附属４年生と上海嘉定区甫苑小学校４年生における実践記録を基に、両国の子ども達の鑑賞学習プロセスについて比較検討を試み、次のように整理した。

①日本の子どもたちは、絵の中に潜在する異文化や違和感をネタにして劇づくりをした。

②中国の子どもたちは、絵の中の世界を忠実に再現しながら劇づくりをした。

③他国の子どもの暮らしぶりを自らの暮らしぶりと重ねて探ろうとする探究的なプロセスが共通して確認された。

(3)上海市荷花池幼稚園の美術教育をパブリックへ発信するアトリエ展示

上海市荷花池幼稚園（早期芸術教育に取り組む幼稚園）のアトリエ展示がパブリックに開かれたパフォーマンス評価の場であるといった視点から、アトリエ展示の内容を整理するとともに、その教育的可能性を次のように考察した。

①荷花池幼稚園では、「色」「光」「線」といったテーマごとに、子どもたちの活動の様子を紹介するドキュメンテーション、子どもたちの共同作品、多様な素材や道具といったものが美しく展示されている活動室が公開されており、幼稚園で取り組まれている造形活動が系統的・長期的に見えてくるものである。

②造形活動の教材や資料が美しく整理・展示されていたアトリエは、子どもだけでなく保護者や訪問者等に、幼稚園における活動を通して子どもたちが出会う造形的要素（点や線など）が今後の造形活動における重要な基本構造になることを意識化させる場となる。

③このようなアトリエ展示は、保護者や教師たちとの協働実践研究を促すパブリックに開かれたパフォーマンス評価の場となる教育的可能性がある。

(4) 市民の参画型パフォーマンス評価として捉えた「レッジョ・ナラ（イタリア：レッジョ・エミリア市の文化プロジェクト）」

研究協力者と共に「第 10 回レッジョ・ナラ（2016 年 5 月）」のフィールド調査に取り組んだ。複数の発表会場を回ることで得た記録を元に、「2016 レッジョ・ナラ」のプログラムの一部について、14 のエピソードとして再構成するとともに、市民教育プロジェクトとしての価値を多面的に考察し、図書『レッジョ・ナラのキセキ』としてまとめた。また、社会に開かれた教育課程を創造するための市民参画型パフォーマンス評価を開発するために、初等教育とつながりのある二つのプログラムを事例として検討し、多様な市民の参画を促すパフォーマンス評価を提案し

て行くためのアイデアを次のように整理した。
①１回のワークショップだけでは伝わりにくい実践哲学や教育活動の展開も可視化されすい活動の場がデザインされている。
②多様な市民の参画を促すために、多重知能理論が活かされた複数のエントリーポイントが準備されている。
③子どもの探究プロセスについて，多様な言葉（身体・光・音・映像・素材・言葉など）で語り合える共同探究の場が用意されている

(5)まとめと課題
　研究目標に掲げた(1)パブリック公開型パフォーマンス評価を導入した異文化理解型鑑賞教育プロジェクトの実践的研究、(2)学習プロセスや教育的価値を共有するパブリック公開型パフォーマンス評価の研究については、ほぼ達成することができたと思われる。今後は、パブリック公開型パフォーマンス評価を発展させた市民参画型パフォーマンス評価に着目し、社会に開かれた教育課程を支える協働実践プロジェクトの開発に取り組みたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

(1)濱口 由美、パブリック公開パフォーマンス評価を導入した異文化理解型鑑賞学習実践プロジェクトの研究-上海師範大学附属小学校へ出前授業に行こう」プロジェクトの実践を通して-、福井大学大学院教育学研究科教師教育研究、査読無、９号、2016、241-248

(2)濱口 由美、パブリックに美術教育の取り組みを発信するアトリエ-上海市荷花池幼稚園のアトリエ視察を通して-、福井大学教職大学院 News Letter、査読無、84 号、2016、20-23

(3)濱口 由美、グローバル時代における学び方を探る、IRCN 国際交流情報、査読無、12 号、2016、7-8

〔学会発表〕（計４件）

(1)濱口 由美、Study on Project for Appreciation Learning for Intercultural understanding:Through the Practice of the Performance Task,"Let's Visit an Elementary School in Shanghai to Give an Art appreciation Class"、35th World InSEA Congress、EXCO,DAEGU, KOREA、2017.8.

(2)高野 牧子・濱口 由美、表現者を育む街：レッジョ・エミリア市、みんなのリユース展、2017.6、やまなしプラザ、

(3)濱口 由美・高野 牧子、多様な表現の境界から創造する「レッジョ・ナラ」の研究、美術科教育学会、2017.3、静岡県、静岡県コンベンションアーツセンター

(4)濱口 由美・大橋 武史、パブリック公開パフォーマンス評価を導入した異文化理解型鑑賞学習実践プロジェクトの研究-上海師範大学附属小学校へ出前授業に行こう」プロジェクトの実践を通して-大学美術教育学会、2015.9、横浜国立大学、

〔図書〕（計３件）

(1)濱口 由美監修、濱口 由美・神谷 美紅・斎藤 はるか・三浦 賢淑・山口 あき・吉田 彩乃著、START LINE No.8-五転び六起き-もがいた中で生まれた私へ、福井大学濱口由美研究室、2018、全 56 頁、

(2)濱口 由美監修、濱口 由美・高野 牧子・猶原 和子著、レッジョ・ナラのキセキ、レッジョ・ナラ研究会、2017、全 55 頁、

(3)濱口 由美監修、濱口 由美・高木 俊介・西本 昂生・三好 愛・山田 夏乃著、START LINE No.５-まわり道で見つけ、つながった４人の言/事、福井大学濱口由美研究室,2016、全 70 頁

６．研究組織

(1)研究代表者
濱口 由美（HAMAGUCHI,YUMI）
福井大学・学術研究院教育人文社会系部門（教員養成）・教授
研究者番号：80588559

(2)研究協力者
大橋 武史（OHASHI TAKEFUMI）
福井大学教育学部附属義務教育学校・教諭

高野 牧子（TAKANO MAKIKO）
山梨県立大学・人間福祉学部・教授